

1 DX人材育成研修の目的

(1) DX推進のための意識変革

デジタル技術も活用した課題解決の意識を持ち実践していく。

(2) デジタルリテラシーの向上

仕事や日常で活用されているデジタルツールを安全に利用できるようになる。

「デジタルツールの例」Zoom、ファイル共有ツール、各種SNS など

(3) ※サービスデザイン思考の習得

利用者の行動・想いに沿った課題解決のプロセスを身に付ける。

※サービスを利用する際の利用者の行動・心理に着目し、サービス全体を設計する考え方

2 R4実施概要(ワークショップ実施)

対象	県	市町
県：DX推進員 市町：希望者 (各市町4名以内)	<ul style="list-style-type: none">事前ワーク → 第1回ワークショップ → 第2回ワークショップ → 事後ワークZoomによるオンラインで開催ファイル共有ツールの活用体験受講人数 第1回：165名 第2回：161名研修の題材 「身近な業務で発見した課題」	<ul style="list-style-type: none">1日のワークショップ×1回Zoomによるオンラインで開催ファイル共有ツールの活用体験受講人数 <u>21市町 49名</u>研修の題材 「庁内業務効率化」「住民手続」「子育て」

3 県ワークショップ

(1) 研修実施の流れ

- ①事前ワーク
↓
- ②第1回ワークショップ（半日、8/3～8/5）
↓
- ③第2回ワークショップ（半日、9/6～9/8）
↓
- ④事後ワーク

(2) 開催方法

- ・Zoom、ファイル共有ツールを活用
- ※ ブレイクアウトルーム機能で、グループディスカッションを実施。
活発な意見交換を促す便利機能を紹介・使用。

(3) 受講人数

第1回：165人 第2回：161人

(4) 研修の内容

身近な業務（テレワーク・電子決裁・ペーパーレス等）で発見した課題を題材として、デジタルを活用した解決プロセスを習得する研修を実施。

(5) 受講者感想等

- ・Zoomやファイル共有ツールは、**案外簡単**に利用できた。
- ・DXは、**誰のために、何のためにやるのかを考えることが大切**だと思った（利用者の目線からズレないように注意したい）。
- ・デジタルはあくまで**課題解決の手段**であることが分かった。
- ・複数の所属の職員が集まり議論したことで、**様々な視点から意見**が出てきて、良い刺激を受けた。
- ・講師からの**アドバイス**等が業務改善の参考になった。

参加者のほぼ全員から研修で得られた成果を今後の業務に生かしたいなど前向きな感想をいただいた。

<改善意見等>

- ・グループディスカッションの**時間が足りなかった**。
- ・**回線トラブル**で聞きづらい箇所があった。
- ・時間制限がある中で、**同じ課題を共有できる部署同士でグループ**を作って欲しい。

(6) 今後の課題等

DXの基礎的内容は理解されたと認識。今後は、業務に活用できる実践的な支援やさらなるレベルアップを図る方法を検討していく。

4 市町ワークショップ

(1) 研修の流れ

- ・ 1日の研修
(7/27~7/29の3日間開催)

(2) 開催方法

- ・ Zoom、ファイル共有ツールを活用
- ※ ブレイクアウトルーム機能で、グループディスカッションを実施。
活発な意見交換を促す便利機能を紹介・使用。

(3) 受講人数

21市町 49人

※新型コロナウイルス感染症の影響等により、4市町欠席

(4) 研修の内容

市町の要望を踏まえ、「庁内業務効率化」「住民手続」「子育て」の業務における課題を題材として、デジタルを活用した解決プロセスを習得する研修を実施。

(5) 受講者感想等

- ・ 様々なデジタルツールを使用したことが新鮮な経験となった。
- ・ DXは、誰のために、何のためにやるのかを考えることが大切であり、時にはアナログも組み合わせることも重要であることが分かった。
- ・ 1人で考えるより、チーム・グループで考えた方がより大きな気づきを得られることが分かった。
- ・ 講師からのアドバイスや他市町の方と意見交換したことで、驚くほど様々な情報を得られた。

多くの参加者から、サービスデザイン思考を活用し、住民目線で行政サービスを充実させる必要があると改めて認識したとの感想をいただいた。

<改善意見等>

- ・ オンラインでは、話すタイミングや間の取り方が難しく感じた。
- ・ オンラインでは、議論が深まりづらいと感じた。

(6) 今後の課題等

DXの基礎的内容は理解されたと認識。今後は、実践に向けての他自治体のDX実践事例を提供するなどの支援を検討していく。